県社保協第15回総会

"財政危機"のなかで
社会保障の充実は可能か？
財源はどうするのか？

日本の社会保障をどう立て直すか

後期高齢者医療制度は発足から4ヶ月がたちました。しかし、年齢による差別医療と天井しらずの保険料に対して、国民・高齢者は大きな怒りを燃やしています。これに対して政府は部分的な見直しでこの批判をかわそうとしていますが、後期高齢者医療制度は廃止する以外にありません。

こうしたなかで、社会保障費の削減はもう限界、との声が政府・与党内からもでていますが、福田首相は来年度も2200億円の削減を継続しようとしています。国保や生保、年金をいっそう切り捨てようというのです。しかし、もうこれ以上の社会保障の後退を許せません。では、これからの社会保障はどうなるのでしょうか、再生の道はあるのでしょうか。財源問題も含めて考えていきましょう。

◇13:30～15:10　記念講演

講師：**谷本　諭**氏（日本共産党中央委員会政策委員）

「日本の社会保障をどう立て直すのか
―高齢者医療、国保、生保を中心に考える」

◇15:15～16:30　総　会

◇08年8月23日（土）

13:30～16:30

◇岡山ふれあいセンター
（岡山市桑野715-2
TEL　086-274-5151）

岡山県社会保障推進協議会
岡山市下伊福西町1-53（TEL　086・255・1140）

県社保協ニュース

発行：岡山県社保協　　2008年8月1日　(07-6号)

岡山市下伊福西町1-53 TEL 086-255-1140)

後期高齢者医療制度

暑い夏に休まず運動盛り上げ

秋の臨時国会で「廃止」を

先の通常国会で後期高齢者医療制度「廃止法案」が提出され、参議院で可決、衆議院では「継続審議」となっています。制度が実施されてから4ヶ月が経ちますが、国民・高齢者の怒りはますます高まるばかり。この暑い夏に、廃止に向けた取り組みをいっそう強め、何としても秋の臨時国会で「廃止法案」を成立させ、同制度を廃止に追い込みましょう。

後期高齢者医療制度を廃止に追い込むためにこの夏の取り組みが特に重要になっています。県社保協は、緊急提案された「後期高齢者医療制度、衆議院で必ず廃止を」署名を早急に広げようと5000枚を取り寄せ、8月中に1構成員2筆を集めることを提起してとりくみをはじめました。また、7月28日と8月11日は全県いっせい宣伝行動を呼びかけました。これにこたえて7月28日には岡山市、津山市などで宣伝行動が行なわれました。2回目となる8月11日はすべての地域社保協が宣伝行動に取り組むようにしましょう。

また、音の宣伝も重視しようと、宣伝カー用の宣伝テープも作成しました。すでに宣伝カーを持っている団体に送付しています。お盆休みにも入りますが、どんどん活用してください。

「懇話会」設置を求める請願採択

県社保協が広域連合議会に提出していた「広域連合内に『運営懇話会』を設置することを求める」請願が7月29日の広域連合議会で採択されました。田辺昭夫議員が紹介議員となり、採択を強く求めた結果、可否同数でしたが、議長が賛成に回ったため可決されたものです。

現在、広域連合内には国保協議会のような住民の声を聞く場がありません。今回の請願は、その設置を求めたもので他県ではすでに設置されているところも少なくありません。なお、同時に提出していた「制度の廃止を求める」請願は不採択となりました。

「廃止」求め、宣伝行動

7/28

県社保協は7月28日、後期高齢者医療制度の廃止を求めて、岡山市のJR岡山駅前で宣伝をしました。（写真）

宣伝行動には9団体から23人が参加し、宣伝カーから「後期高齢者医療制度は75歳以上のお年寄りに『死ね』というに等しい制度です。命の平等は誰にも保障されるものです。衆議院で廃止法案を成立させましょう」と呼びかけました。

岡山市は35度を超す炎天下、およそ30分間の行動でビラ300枚を配布、署名も18筆が寄せられました。

ビラを受け取った人は「これは高齢者の問題ではないですよね。いずれみんな年をとるのだから」「私はまだ70歳前だけど、国保料金も年金から天引きされた。頭にくる」と、怒りもあらわにしながら、署名にはこころよく協力してくれました。

高校生も積極的に署名に応じてくれました